

# 多様な性ってなんだろう？～すべての子どもがすごしやすい学校とは～

認定特定非営利活動法人 ReBit

## 【多様な性について】

### ◆セクシュアリティとは？

ReBit では、セクシュアリティ（性のあり方）を主に以下の 4 つの要素で説明している。

<b>自認する性</b>	自分で自身の性別をどのように認識しているか。
<b>からだの性</b>	外性器・内性器・性腺・性染色体の状態や、性ホルモンのレベルなど。
<b>好きになる性</b>	恋愛や性愛の対象となる性。
<b>表現する性</b>	服装や行動、振る舞いにみる社会的な性。

### ◆多様な性とは？

LGBT：レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字。

セクシュアルマイノリティの総称の一つ。

SOGI（ソジ）：「Sexual Orientation（好きになる性）」と「Gender Identity（自認する性）」の頭文字。

⇒セクシュアルマイノリティの人もそうでない人も、それぞれにセクシュアリティがある。

※「Gender Expression（表現する性）」を加えた SOGIE（ソジイー）、

「Sex Characteristics（からだの性）」を加えた SOGIESC（ソジイスク）という表現もある。

多様な性：すべての人がそれぞれもっている、一人ひとりの性のあり方の総称。

⇒一部の人だけがちがうわけではなく、一人ひとりちがう、それぞれのセクシュアリティがある。

### ◆多様なセクシュアリティ

※性はグラデーションで存在する。人の数だけセクシュアリティがある。

※ホモ・オカマ・レズ・オナベ・おとこおんな・おんなおとこ・オネエ：

差別的な意味があるため正式名称を使用する。子どもたちや周囲の大人が使用していたら注意する。

### ○自認する性とからだの性の関係を表す名前の一部

<b>トランスジェンダー</b>	自認する性と生まれたときのからだの性をもとに割り当てられた性が異なる人。
<b>トランスジェンダー男性</b>	自認する性が男性で、生まれたときのからだの性が女性の人。
<b>トランスジェンダー女性</b>	自認する性が女性で、生まれたときのからだの性が男性の人。
<b>X ジェンダー</b>	からだの性がどうであるかにかかわらず、自認する性が男女のどちらかに定まらないまたは定めない人。
<b>シスジェンダー</b>	自認する性と生まれたときのからだの性をもとに割り当てられた性が一致する人。
<b>シスジェンダー男性</b>	自認する性が男性で、生まれたときのからだの性も男性の人。
<b>シスジェンダー女性</b>	自認する性が女性で、生まれたときのからだの性も女性の人。

※性同一性障害：診断名。トランスジェンダー≠性同一性障害。

○自認する性と好きになる性の関係を表す名前の一部

女性同性愛者（レズビアン）	自認する性が女性で、好きになる性も女性の人。
男性同性愛者（ゲイ）	自認する性が男性で、好きになる性も男性の人。
両性愛者（バイセクシュアル）	自認する性がどうであるかにかかわらず、男性も女性も好きになる人。
全性愛者（パンセクシュアル）	自認する性がどうであるかにかかわらず、好きになる性を問わない人。
無性愛者（アセクシュアル）	自認する性がどうであるかにかかわらず、恋愛や性愛の対象を持たない人。
異性愛者（ヘテロセクシュアル）	自認する性が男性で、好きになる性が女性の人。 自認する性が女性で、好きになる性が男性の人。

【教育現場における多様な性】

◆教育現場での LGBT に関する現状

- 国内の調査では LGBT は約 **3～10%** いるといわれている。
- トランスジェンダーの **56.6%** が小学校入学前までに、**80%** が中学校入学前までに、**89.7%** が高校入学前までに、性別に違和感を感じ始める\*1。
- LGBT の **68%** が小学校から高校の間にいじめや暴力を受けたことがある\*2。
- トランスジェンダーの **58.6%** が自殺念慮を抱いたことがあり\*1、**28.4%** が自傷・自殺未遂をしたことがある\*1。  
さらに **29.4%** が不登校を経験したことがあり\*1、**16.5%** が精神科合併症の既往歴がある\*1。
- LGBT であることを打ち明けた相手の **67%** が同級生\*3。

\*1 中塚幹也（2017）『封じ込められた子ども、その心を聴く：性同一性障害の生徒に向き合う』ふくろう出版、pp.49-53

\*2 いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン（2014）「LGBT の学校生活に関する実態調査（2013）結果報告書」p.7

\*3 いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン（2014）「LGBT の学校生活に関する実態調査（2013）結果報告書」p.5

◆教育現場に期待されていること

内閣府「自殺総合対策大綱」「子供・若者育成支援推進大綱」、文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」  
「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について」「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」などで**教職員の理解、学校の対応**が明記される。

◆多様な性や多様性について学校で教える意義

- セクシュアリティは性や恋愛の話だけでなく、人生設計に関わる**アイデンティティ**の一部。
- 多様な性について伝えることは、**すべての子どもたちにとって、**  
自尊心・自己理解の確立や、安心・安全にすごせる学校環境づくりにつながる。  
他者理解・多様性の受け止めや、個性を尊重し合う環境づくりにつながる。
- 多様な性を切り口に多様性を考えることで、学校が、「ちがいを」受け止め合い、誰もが安心・安全にすごせる居場所となる。
- 誰もが多様な中の一人であることを伝えることは、誰かとちがうことを気にしている子どもに「大丈夫だよ」と伝えることになる。

## 【教育現場でできること】

### ◆本人から相談やカミングアウトを受けたとき

#### ○カミングアウトを受けたときの3ステップ

①聴く	②知る	③つなげる・つながる
様々なシチュエーションが想定される。どんな言葉も無下にせず、受け止める。中には初めて人に話すという子も少なくない。人がいない場所に移動する、「話してくれてありがとう」と伝えるなど、安心して相談できる環境をつくる。	その子が何に困っていて、何を求めているのか、一人ひとり違う。対話の中で少しずつ知りながら、どんな対応ならできるのかなども含めて共に考え、進めていく。その際、無理にセクシュアリティを聞き出そうとしない。	個人での対応が難しいときは、専門機関や当事者団体などにつなげる。各種相談窓口は、相談を受けた人も、匿名性を守りながら利用することができる。

#### ○カミングアウトを受けたときの2つの“ナイ”

①決めつけない	②広めない
自分のセクシュアリティを決められるのは自分だけ。「思い過ごしじゃないの?」「いつか“治る”よ」「君は性同一性障害じゃないのか!？」など、否定したり、決定を強要したりしない。	<b>本人の同意なく、第三者に伝えること（アウティング）は避ける。</b> 他に誰か話している人はいるか、確認する。緊急性が高い場合や共有すると問題解決がスムーズに進みそうな場合などは、本人に事情を伝え、同意の上で進める。

※相談に来られるのはごく一部。まずは**相談できる雰囲気をつくる**ことが大切。

※カミングアウトはプロセス。最初はうまくいなくても、時間をかけて関係性を築き直すことはできる。

### ◆保護者や友人など周囲の人から相談を受けたとき

#### ○安心させるための情報を伝える

- ・無理にセクシュアリティを聞き出そうとせず見守る
- ・信頼できる相談先がある
- ・産み方／育て方／本人の責任ではない
- ・不幸なわけではない

### ◆LGBT の子どもたちが困りやすいこと

#### ○男女分け

トイレ、更衣室、制服、健康診断、敬称、一人称、持ち物の色、名簿、性教育、男らしさ/女らしさ など

⇒**本当に必要なのか検討する、個別の対応を想定しておく、いつでも何でも相談できることを全体に伝える**

#### ○情報を得られないこと

男女・異性愛を前提とした会話、教科書の記載、図書館の蔵書 など

⇒**授業や日常会話で多様な性や生き方に関する情報を伝える**

#### ○「味方」が見えづらいこと

生活の中でのからかい、相談しづらい雰囲気 など

⇒**どんな揶揄も注意する、普段の言動に気をつける、いつでも何でも相談できることを全体に伝える**

◆「LGBT かもしれない子」がいたとき

○セクシュアリティは見た目では判断できないので、全体に対して情報発信をする。

○セクシュアリティがわからなくても対応できること／すべきことはたくさんある。

【今日からできること】

	今日から	1 年以内に
先生 として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼称を「さん」で統一する</li> <li>・子どもたちの間で多様な性に関する揶揄を見かけたら声をかける</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な性に関する本/映画/ドラマを見る</li> <li>・ニュース/新聞で情報収集をする</li> <li>・かぞく/友達/地域の人などに今日の研修の話や多様な性に関する話をする</li> <li>・多様な性に関する講演会やイベントに参加する</li> </ul> <p>など</p>
学校全体 として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おたよりに多様な性に関する情報を載せる</li> <li>・レインボーグッズを校内に置く</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な性に関する本を図書館などに置く</li> <li>・制服、トイレや更衣室の使用など、学校内の制度についてみんなで検討していく</li> <li>・児童生徒向けに多様な性に関する授業や講演会を行う</li> <li>・教職員、保護者、地域住民向けに多様な性に関する研修や講演会を開く</li> </ul> <p>など</p>
個人 として		

【参考情報】

◆相談窓口・支援団体

○よりそいホットライン（24 時間無料電話相談、4 番が性別や同性愛に関する相談） 0120-279-338

○NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会・東京（LGBT の人たちの家族・友人による会） 090-9876-2423

○NPO 法人 SHIP 「SHIP にじいるキャビン」（横浜市内にある LGBT の若者のためのフリースペース）

○NPO 法人ピアフレンズ（男の子が好きな男の子のための友達づくりイベント）

○にじーず（池袋、さいたま、札幌で月 1 回開催される 10 代～23 歳くらいまでの交流会）

○にじっこ（都内で開催される 15 歳以下の子どもたちや家族のための交流会）

◆ウェブサイト

○OUT IN JAPAN（LGBT の人たちのポートレートとメッセージ）

○LGBTER（LGBT の人たちとアライの人たちへのインタビュー）